

ぎやらりー わ

NO.71

2015年7月号



●花の村内散歩
あじさい(木村成男撮影)

編集・発行 NPO法人グループわ (小畑 浩昭) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL.078-743-8101 FAX743-3830



息のあったSCハワイアンズの演技(木村成男撮影)

総会初の舞台パフォーマンス

〈わ〉新たな 一歩踏み出す 第12回総会

新理事長に小畑氏

NPO法人グループ〈わ〉の第12回定期総会は、5月23日(土曜日)にカレッジホールで開かれ、26年度の事業報告と27年度の事業計画を承認、新理事長に小畑浩昭氏を選出しました。小畑新理事長は「〈わ〉は1300人を超す大きな組織。会員のみなさまのご支援、ご協力よろしくお願ひします」とあいさつ。新任の理事4人、非常勤理事、監事も含め19人の新体制で27年度の活動がスタートしました。総会后、功労会員に選ばれた会員1人と2団体の表彰式も行われました。午後からは、初めての試み「グループ〈わ〉交歓会」(舞台パフォーマンス)が開催され、グループ9団体が参加。日ごろの練習の成果が披露され、熱い拍手が送られました。

(取材・写真 広報 永野知己)



ボランティアの
輪をひろげよう

人と繋がる 私の原点 学長インタビュー 5面

71
号の
内容

12回総会詳報 功労会員表彰	2・3・4面	ボランティアの心 活動レポート	10面
東北第6次派遣の詳報	6・7面	カレッジだより 地域交流など	11面
ボラ最前線(西区会の花壇整備)	8面	イベント予定 7月~9月	12面
特集 本部のイベント活動	9面	WAからのお知らせ	13面

子供たちの健全育成を重点に！

グループくわ 第12回定期総会



5月23日に開かれたNPO法人くわの定期総会で小畑新理事長は「子供たちの健やかな成長を重視した事業を進める」との姿勢を打ち出しました。

総会は午前10時に増金スミ子さん(福11)の司会で開会。堺理事長が「休日の開催に出席ありがとうございます。午後には交歓会も行います」と挨拶。

来賓の服部祥子シルバーカレッジ学長から「自身もシルバー世代であり、共感しています。〈再び学んで他のために〉は、主体性・連帯性・無償性のボランティア精神をもって、社会のために活動することだと思います。再び学んだ英知を発揮して、くわの一人一人が力を合わせて活動して欲しい。それが今井鎮雄前学長の思いだと考えます」と祝辞を述べました。



計画を説明する小畑理事長

続いて議長に加藤勇治氏(美10)を選出「出席者174委任状533の計707で定足数645(会員総数1289人の2分の1以上)を上回っており、総会は成立」との報告があり、議事に移りました。

堺理事長は「26年度は、子どもの健全育成を中心とした事業を推進。昔の生活体験・戦争体験を含む小学校の学習支援、花実の森の里山活動を進め小学生の自然環境体験学習を推進した。「ぎやらりーわ」の充実とホームページの内容一新を進めた。長田区の地域人材支援センターにパソコン教室を開設。東北支援では7月に第5次チームを女川町、名取市に派遣し、仮設住宅や小学校を再訪、被災地との連帯・心の絆を深めた。会員のスキルアップ講座として防災講座を実施した」と事業報告・決算報告があり、長谷川監事の監査報告の後に、拍手で承認されました。

続いて新役員19人(別表)が拍手で承認され、小畑新

【平成27年度の新役員】

理事長	小畑 浩昭	(国16) =	・北
副理事長	吉本 弘	(音17) = 企画・垂水	
副理事長	田路 義弘	(生17) = 事業・須磨	
理事	山本 都子	(生17) = 財務・兵庫	
理事	北村 洋	(生17) = 事業2・北	
理事	水町 亮治	(生18) = 総務・中央	
理事	永野 知己	(生18) = 広報・須磨	
理事	岡本 紘一	(生18) = 広報・垂水	
理事	四方 久幸	(国18) = 事業1・北	
理事	内村 ナナ子	(国18) = 事業・中央	
理事新任	杉原 ふき子	(生18) = 総務・須磨	
理事新任	米増 享二	(音19) = 総務・北	
理事新任	田中 伸一	(福19) = 財務・長田	
理事新任	藤田 健一	(福19) = 広報・西	
理事(非)	海野 龍英	(食16) =	・明石
理事(非)	土井 昭政	(国10) = 区会長・北	
理事(非)	柳川 淳一	(国13) = 部会長・須磨	
監事	南形 徹	(生14) =	・北
監事	堺 汎	(園15) =	・西

【区会長】東灘=中谷 一郎(生15)

灘 = 広瀬 庫司(園17) 中央=久保 正志(国14)
兵庫=大掛 敏夫(生7) 北 = 土井 昭政(国10)
長田=藤田 忠之(福13) 須磨=細野 恵久(福3)
垂水=山口 昭則(生18) 西 = 戎井 正俊(生17)

【部会長】福祉=加藤 勇治(美10)

国際=柳川 淳一(国13) 環境=真崎 光(美18)
文化=重松 豊彦(国9) いきかい=吉永美沙子(国12)
▽須磨一ノ谷 プラザ責任者=藤田 忠之(福13)
▽学習支援委員会 委員長 = 堺 汎(園15)

理事長が27年度の事業計画を説明。「本年度も子供たちの健全な育成を最重要課題として取り組む。組織の点検、整備を進めながら地域振興や福祉・文化・環境・国際などの分野での活動を通じて、社会に貢献する。須磨のお買いものサポーターを本格実施する」と述べ、会員よりグループの活動場所についての提案があった後に、27年度の事業計画、事業予算を原案通り、拍手で承認、11時に議事を終了。このあと、部会長・区会長・一の谷プラザ責任者・学習支援委員長に選出された16人(別表)を紹介。灘区・垂水区・西区の各区会長、環境・生きがいの各部会長が交代しました。



活動報告・活動計画を熱心に聞く会員

昼食休憩をはさんで12時40分からカレッジホールで交歓会（舞台パフォーマンス）が行われました。

福祉部会から2グループ。「明生園もみじ会」はボール遊びなどをして知的障害者のリハビリを、「一寸奉仕」は白波5人男を披露。

文化部会から7グループ。「SCハワイアンズ」はハワイアンのバンド演奏とフラダンスを披露。「KSC民謡クラブ」は三味線、尺八、太鼓、篠笛などの生演奏で民謡と踊り（ソーラン節、花笠音頭）を披露。



「わらい届け隊」はちんどん屋でパフォーマンス。

「KSC手話ソング同好会」は（君といつまでも 夢の坂道）を手話で。「SCクラブ大正琴」は大正琴の音色にのせてナツメロをお届け（君の名は ブルーライト 横浜 花は咲く）「楽遊クラブ銀雅」は日本民族芸能「銭太鼓」で（しあわせ音頭 憧れのハワイ航路 東京五輪音頭）を披露。「KSC男声合唱団」は平均年齢73歳のおじいちゃん達の合唱団（夢をみようよ ブンガワソロ 斎田朗節）を披露。舞台パフォーマンスの後、ピンゴゲームで大いに盛り上がりました。

（取材 広報・岡本紘一 写真 木村成男 中部周二）

グループの活動を支える

小畑新理事長にインタビュー

グループ〈わ〉の小畑浩昭新理事長に6月19日、新しい時代を切り開くための課題と抱負を聞きました。

◆生い立ちは？

1942年にソウルで生まれ、3歳の時に引き上げてきて、主に兵庫県三木市で幼少期を過ごした。神戸市役所に就職、阪神淡路大震災の際は垂水区役所総務課長で区の災害対策本部として対応。

◆カレッジへ入学・〈わ〉へ入会した経緯は？

神戸市役所の先輩からカレッジについて聞いていたが、役所を離れてから1年後に入学した。カレッジ2年生の時に、男声合唱団の代表になったことが切っ掛けで、〈わ〉に入会した。

◆理事長としての抱負は？

5周年誌や10周年誌をひも解いてみて、先輩が立ち上げた経緯などから、〈わ〉のイメージを再確認した。

震災直後に自主的に生まれた10グループの個々の活動から、まとまった組織的な活動に切り替えるために、〈わ〉が誕生した。従って、各グループの活動が中心であり、それを支えるのが〈わ〉の目的と考える。

NPO法人として活動のための財源の確保が重要であり、助成金の申請にも注力する。現在「こども夢基金」30万円の助成を受けた。こどもたちの自然学習のため、花実の森、里山グループ、ピオトープの会、野鳥と自然観察会、ケナフの会、野草クラブなどのグループと一緒に進める。

こうべ福祉振興協会と連携し、しあわせの村をグループの活動の場とするために、ワイワイストリート、夏休みのワークショップなどのイベントに、〈わ〉が出来る範囲で積極的に取り組む。

東北交流活動の来年度の内容は、7月実施の6次の結果などにより決める。東北物産展を行い、こどもたちにプレゼントを送るなど今後は、「被災地とのつながり」を大切にした活動を検討してゆきたい。

年初より進めている組織改革については、提言内容の主旨・目的を整理して進めて行く。出来るもの、例えば本部内の作業環境整備は早めに進める。部会・区会に関するものは、運営委員会で積極的に情報交換の場を設け意見交換を行いながら進める。

（まとめ 広報 永野知己 岡本紘一）

功労賞 個人1人・2団体を表彰

グループ〈わ〉の27年度功労賞に選ばれた個人1人・団体2グループが5月23日〈わ〉の第12回総会で表彰され、小畑新理事長から表彰状と副賞が手渡されました。個人は、児玉浄（生1 西区）・グループは、広陵パソコン教室（横井正明代表）と民謡クラブ（待鳥孝夫代表）です。

表彰式には、選ばれた個人1人とグループ代表2人の計3人が出席。小畑理事長から「長年にわたってボランティア活動に励み、グループ〈わ〉の発展に貢献されました」と感謝の言葉があり、その後皆さんの活動ぶりがパワーポイントで紹介されました。

今回で6回目となる表彰制度は、個人で7年、団体では5年以上のボランティア活動歴があり、〈わ〉の活動に貢献している個人やグループが対象。（活動内容の詳細は、70号に掲載しています）

今後も精進し…活動を継続

表彰式に出席の皆さんから寄せられた受賞の感想をご紹介します。（敬称略）

▼児玉浄=この度は、功労賞を頂き身に余る光栄に思います。西区会で始めた、コーラスグループ（コーロむつみ）は、区会のご支援のもと、ボランティア訪問先の方々とともに、昨年10周年記念コンサートを開催することが出来、感謝しております。また趣味で始めた高齢者施設での社交ダンスボランティアも続いており、こちらも元気を貰っております。

▼広陵パソコン教室：横井正昭代表（在籍9人）=このたび北区会長土井昭政さんの推薦により、はからずも代表として功労賞をいただきました。

広陵地域のパソコン教室の開催を機会に、SC広陵



喜びの受賞者(左から) 待鳥孝夫〈民謡クラブ代表〉・児玉浄・横井正昭〈広陵パソコン教室代表〉の皆さん

K S C 民謡クラブ || コーラスで慰問活動12年
広陵パソコン教室 || 地域でパソコン指導

同窓会のパソコンに精通した方々のご協力により、パソコン教室をサポート、地域の方々との交流も深まり感謝されています。今後も、受賞を励みに活動を続けたいと思っています。

▼民謡クラブ：待鳥孝夫代表（在籍58人）=民謡に魅かれ集う仲間たちがカレッジ卒業後も「大きな声で元気よく楽しく唄う」をモットーに和気あいあいと活動しています。このたび、12年余の活動を評価して頂き、大変有難く思っています。特にこれまで地道にクラブを支えてこられた先輩方へこの上ない“ご苦労様”の贈り物になりました。受賞を励みに今後も精進し、さらに継続していきます。

（広報・藤田健一）

新理事の抱負 明るく楽しく元気よく

◆杉原 ふき子（総務） 〈わ〉の活動について今まで、深く知りませんでした。卒業生の多くが入会、「再び学んで他のために」を実践され、部会・区会等を通じて活動されているのを知り、驚いています。会員の皆様が、より明るく・楽しく活動できるように、微力ながら努力します。

◆米増 享二（総務） 「再び学んで、他のために」の校訓に感化されてシルバーカレッジに入学し、在学中はハワイアンバンドと歌声サークルでボランティア活動を実践してきました。沢山の施設を訪問して感動と遣り甲斐を感じた経験を活かし、卒業後に〈わ〉の理事として皆さまのお手伝いが出来ることを嬉しく思います。

◆田中 伸一（財務） カレッジと関わって早8年？（事務局で5年、学生で3年）さらに、この度〈わ〉の財務担当としてお誘いいただきました。このご縁を機に諸先輩との出会い、ふれあいを大切に「もっと学んで、他のために」をモットーに頑張る所存です。コンパクトな体同様に、小回りよく、明るく・楽しく・元気に頑張りたいと思います。ご協力、ご支援よろしくお願いたします。

◆藤田 健一（広報） これまで、ボランティア活動への参加については消極的でしたが、今後は〈わ〉の活動の更なる発展のため、自ら諸活動に積極的に参加するとともに、広報活動を通じて、少しでも地域社会に貢献できるよう、皆さんと力を合わせて頑張ります。

人と繋がるーわたしの原点

服部学長にインタビュー

太平洋戦争末期、岡山の小さな山村に4歳で疎開、村中の人に可愛がられました。豊かな自然に囲まれ、せかされることなく、のんびりと満ち足りた子供時代でした。

服部祥子カレッジ学長は、ソファにゆったりと腰かけ、時折、遠い目をしながらインタビューに応じてくださいました。約束の1時間を大幅に超え、2時間余り。5月22日、頌栄短期大学でお伺いした内容は次の通りです。

◆先生の生い立ちとは？

私は昭和15年、大阪市に生まれました。同20年3月10日、東京大空襲のあった日、東京・吉祥寺から遠い親戚を頼り、岡山市と津山市の中間に位置する山あいの九谷という集落に疎開。父は陸軍軍医で、敗戦後、九谷に戻った。父母、祖母、姉3人と私の7人家族。医者のない地域で、腕の良い外科医の父の評判を聞いて、患者さんが押し寄せた。集落は、公会堂を住居として一家に提供、診察室にもなった。

◆どんなお子さんでしたか

小学校は遠くて往復2里。小学校へ通う途中、しゃべらない子で、ニコニコしているだけ。物語を語るのは得意で上級生にもせがまれた。大抵、寄り道をし、川で魚を獲ったり、わらの山で昼寝、心豊かに暮らす事ができた。

◆医学部精神科を選んだのは何故？

姉3人が医学の道に進まなかったため、母に強く勧められて、岡山大学医学部を受験。どっちみち落ちるだろうと思っていたら合格してしまった。岡山大ではグループに別れ、診療各科を3週間ずつ回り、勉強する。学生1人が患者1人を受け持つ。精神科で受け持った初老の女性は、入院から2年たつのに、一言もしゃべらない。カルテには「小豆島出身で大阪で暮らしたことがある。子どもは1人。離婚している」位しか書いてない。日がな1日、無表情で窓の外を見ていた。わたしもこの患者に寄り添い、じっと黙っていた。3週間たつと「あんた結婚しとるの」「あんたいくつ」と話しかけてきた。自閉の壁が溶けたのだ。この時、「人は人。必ず繋がることので

きる」と痛切に感じた。私の原点である。

インターンの時、結婚。主人が大阪勤務だったため、大阪大学精神科教室に所属、公立病院に勤めた。

外科医なら患部を切り取ればなおす事ができる。しかし、精神科医は何もできない。患者に寄り添い、心を溶かすしかない。約40年、現役だったが、1人の自殺者も出さなかったのが密かな誇りだ。

◆カレッジ学長になられた経緯は？

灘神戸生協の創立者、賀川豊彦の流れをくむ御影の東神戸教会の信者で、亡くなられた今井前学長もこの教会の信者だった。先生とは親しくして頂き、尊敬申し上げていた。昨年、今井先生をお見舞いした折「カレッジを頼んだよ」といわれた。ことし2月、多くの方々に推され、学長になった。今井先生の末の末の弟子がおこがましいと恐縮している。

◆ボランティアとは何でしょうか

①正しいと信じることを自らの意志と力でやり抜く②人と連帯し共同体意識を持つ③無償でやる。物質的な見返りを求めないーことでしょう。厳しい競争社会の今、さびしい人があふれている。信じる社会をめざし、ともに生きることが何よりも大切。例えば週末里親制度がある。父にも母にも捨てられ、児童養護施設に入っている子どもがいる。週末、親が迎えに来て家に帰れる子どもがいるのに、この子たちはさびしく施設で過ごす。里親は毎月、1回か2回、週末に決まった子どもを家庭で預かる。子どもを「お帰し」と温かく迎え、可愛がり、施設に帰る時には、おみやげを持たす。物を壊す、大便を壁になすりつけるなど手に負えない4、5歳の子が、里親に慈しまれ、心底うれしそうにし、笑顔がこぼれたという。里親もそうだが、ボランティアは細く、長く続けることが大切だ。

◆グループ〈わ〉に何を期待しますか

なすべきことをなし、会社、役所、商売など現役生活を終えてカレッジに入学、卒業し「再び学んで他のために」を实践されている〈わ〉には、多くを期待している。豊かな人生経験、知識、技術をお持ちで、多彩な人材がおられる。少子高齢化社会の今、この人材を生かさないと手はないでしょう。

(取材・写真 広報・永野 知己)



心が通った東北交流

復興住宅でカレー 住民と懇談

「やーお久しぶり。今年も来ましたよ」――グループ〈わ〉の第6次東北交流チーム9人は、7月2日～6日の日程（4泊5日）で仙台市の仮設住宅・小学校、女川町の復興住宅・保育所と名取市の小学校を訪問。昔遊びや大道芸、手料理の交歓会、ディスコン遊び、お茶会で子どもたちや市民・町民の皆さんと交流を深めてきました。2、3、4日は振興協会チームと合同で、5、6日は〈わ〉単独で、楽しいひと時を過ごしました。女川町は住宅の高台移転のための土壌嵩上げや新しい道路建設工事が急ピッチで進み、町中で土木工事。カーナビも役に立ちませんでした。

（東北プロジェクト・永野知己）



おいしかった。復興住宅集会所でカレーの食事会



第6次東北交流チームの一行9人は7月2日午前7時30分、神戸空港に集合。8時15分にスカイマーク機で飛び立ち、9時35分、仙台空港に到着。レンタカー2台に分乗し仙台市の荒井小学校仮設住宅集会所に移動、協会チーム11人と合流しました。集会所には被災住民31人が待ち構えており、協会チームはストレッチ体操を指導。ドレミちゃんはタップダンスを披露し、住民に踊り方を伝授しました。〈わ〉のマジック・大澤さんは何も無い黒布から卵、ひよこを取りだし、「ウォー」と熱い拍手をいただきました。増金さんは「あーさて、あーさて」の掛け声とともにプロ級の南京玉すだれを披露、みなさん大喜びでした。名取へ移動してホテルに1泊。

3日の午前中は仙台市の東六郷小を訪問。協会チームはドレミちゃんのパフォーマンス、ウクレレ教室など。〈わ〉は昔遊びで大澤さん、岡田さん、波多野さん、海野さんらがチラシを使って紙鉄砲・紙飛行機の作り方、使い方を実演、児童と一緒に遊びました。全校児童17人はお礼に「くろしお太鼓」を打ち鳴らしてくれました。

午後は、名取市社協の今野常務理事を訪ね、閑上地区の復興状況を伺いました。「閑上地区の復興工事は



復興住宅集会所での大原北区住民と懇親茶話会

遅れがち。今、大型ダンプが1日に1000台行き交い、渋滞も再三起きている」といいます。名取の日和山公園の慰霊碑に献花。夕方、女川町の宿屋に。

4日午前女川町の運動公園復興住宅集会所でお楽しみ会。〈わ〉の波多野さんの「ソーラン節」などの呼び込みの三味線に誘われ、大原北区の住民61人が集まりました。協会はストレッチ体操と食と健康の話。

〈わ〉の増金さんは大澤さんと組み、南京玉すだれで見事なハートを描きます。増金さんは白波五人男の扮装でタバコをぶかり。昨年も見た人でしょう、「待ってました」との声がかかります。大澤、岡田さんの昔遊びに加え、波多野さんの三味線で「北国の春」「幸

せのワルツ」などを全員で歌い、心が通ったように思えました。

お楽しみ会と並行、鈴木・大原北区区会長と婦人部の5人(阿部部長)が南形、海野、井口さんと一緒にカレー80食分を作ります。神戸流と女川流が混じり「コクがある。おいしかった」とすこぶる好評。午後はディスコン大会。



円盤を転がし、的に近づけるカーリングに似た遊びです。男性や子供たち20人、8チームが参加。初心者ばかり。ペタンクが盛んな土地柄で

すぐに溶け込 **ディスコンに夢中の復興住宅のみなさん** めたようです。熱戦の末、サンマチームが優勝。

5日は前日の集会所で鈴木区長、自治会役員、女川社協の矢竹さんの計19人と懇談。運動公園住宅は昨年4月に入居。8棟200戸、408人が住んでいます。自治会役員のなり手が少ない中、なんとか7月に結成。「男にだけ任せておけない。女の手が必要」と婦人部も結成したそうです。矢竹さんは「地域の弱い人は地域で助ける」とボランティアグループが町内に約40団体あると報告しました。懇談では、2013年11月の交流報告会でも上映した仙台商業高校教師の氏家錦さんが撮影した震災直後の女川町のビデオを見ていただきました。

「アッ、Aさんとこや」などと懐かしそうな声上がり、震災から5年目、心の傷が少しは癒えてきているかに見えました。昼からは石巻の復興状況を視察。

6日は女川第1、第4保育所で昔遊びの公演。ストローロケット、紙トンボ、はねがえるなど多彩なメニュー。園児は「コマが回った、回った」と飛び跳ねて喜んでいました。チームが引き上げる時、わざわざ、ガラス戸をあけて「またねー。バイバイ」と可愛い手を振って別れを惜しみました。

昼休みに須田女川町長を訪問。町長室に招き入れられ「JR女川新駅、女川温泉湯ぽっぽ、女川水産業体験館が完成、女川駅前地区の街づくりは12月にはオープン」とのことで復興は少しずつ前に進んでいます。

午後は名取市の閑上小を訪ね、5、6年生代表4人に神戸の甲緑小の激励のメッセージを手渡しました。

女川町での活動では、4、5、6日の3日間、元女川社協職員の武石久美子さんがともに行動、お手伝いいただきました。誌上を借り、深く感謝いたします。

第6次チームは6月中に4人を公募

第6次チームは6月中に公募。現役1人を含む4人を決定、本部役員5人と合わせ9人編成となりました。

第6次東北派遣チーム=団長・堺 汎(園15)、リーダー・南形徹(生14)、総務・海野 龍英(食16)、井口久美子(福16)、永野知己(生18)、増金スミ子(福11)、大澤貞男(生13)、波多野武郎(食16)、岡田洋子(園21)◆留守部隊=小畑浩昭理事長(園16)、橋野美子(一般)◆プレゼント 保育所・小学校・復興住宅の皆さんには、文具セットや昔遊びの道具などの他、〈わ〉理事が持ち寄った飴玉100人分を贈りました。振興協会もトリヤタヌキの木アートのキットを訪問先に贈りました。

サポート募金賛同者 (4月1日~6月30日分・敬称略)

鐘築重治(園7) 3千円、小澤輝彦(生13) 5千円、北浦俊明(生16) 5千円、国頭隆雄(福7) 3千円、吉岡慶子(園7) 1500円、宮城智子(音2) 5千円、堺汎(園15) 5千円、加茂周治(音19) 2千円、江本和嘉子(食7) 1万円、赤司松美(生6) 千円、中部周二(福19) 3千円、横井正昭(園6) 千円、久保田盛利(食7) 555円、山口温己子(音16) 千円、高津尚之(福17) 3千円、坪田とし子(福19) 千円、桑原サト子(福3) 千円、久保建彦(生18) 3千円、伊藤功(音13) 3千円、井上正(食7) 千円、多賀浩三(園13) 3千円、柳田千恵子(生16) 千円、村岡孝(音13) 2千円、黒木薫(福9) 1500円、沖邦輔(福14) 千円、田貫光男(園6) 千円、藪本明毅(音19) 千円、戎井正俊(生17) 2千円、水野光明(福16) 千円、久保正志(園14) 3千円、井上千加子(園15) 3千円、一森美代子(福12) 5千円、重松豊彦(園9) 千円、米増亨二(音19) 3千円、藤田健一(福19) 3千円、田中伸一(福19) 3千円、杉原ふき子(生18) 3千円、宮崎芳江(生12) 千円、野村邦子(美15) 千円、野村英勝(生16) 千円、三宅みどり(福15) 3千円、山口昭則(生18) 5千円、沖本无辺子(園17) 千円、上辻節子(食16) 千円、小林健二(生19) 千円、萩原一宏(生11) 千円、飯川泰郎(園12) 千円、池内瞳(福18) 1500円、胤艸竹宏(福1) 2千円、古後弘子(音19) 千円、柳原弥栄子(生13) 5千円、稲上幸子(音17) 2千円、江田久美子(福10) 1万円、前川功子(福18) 2千円、上月清(食12) 3千円、才田章子(音17) 5千円、大坪良子(園19) 500円、募金箱314円、内田たみ子(福10) 5千円、西村和子(音17) 2千円、待鳥孝夫(生13) 3千円、村上徳子(生16) 千円、片山洋子(生16) 千円、水町亮治(生18) 5千円、中須賀毅(福16) 千円、常信久子(音5) 千円、馬場偉夫(福16) 3千円、池田八郎(生17) 2千円、長谷川洸士(園11) 3千円、住田暉江(食3) 1500円、平尾順子(福3) 2千円、小島光子(生15) 3千円、橋岡章(音8) 千円、宮本文彦(美18) 3千円、深川久美子(音5) 3千円、井口久美子(福16) 5千円、斎藤幸久(園19) 2千円、島ノ江繁吉(生18) 千円、植田收(福7) 2千円、道井紅(福17) 2千円、秋森喜代子(園18) 500円、山本郁子(生17) 3千円、松本弘子(生11) 千円、都藤可江(福10) 千円、三浦知子(福11) 千円、有田兼光(生14) 千円、KSC民謡クラブ1万円、俵貴志子(生16) 5千円、福本節子(園20) 500円、井上美恵子(園20) 500円、藤原治(食17) 千円、武藤久子(園17) 3千円、中谷昭子(福12) 千円、廣畑朱美(食10) 3千円、泉田政子(音2) 3千円、広瀬範義(福18) 1500円、牧田譲(園7) 2千円、坂本勉(食7) 千円、細野恵久(福3) 5千円、相緒素子(音19) 千円、黒崎幸雄(生11) 5千円、横井幸雄(福1) 5千円、古後健一(福18) 2万円、新田昌明(園3) 2千円、菅田忠志(生11) 2千円、板野武一(生16) 2千円=合計277,369円

お遊び感覚 花壇手入れ



西区会体育館グループ

ボランティア最前線

「お遊び感覚で、気楽。花壇の手入れは全然、苦になりません。楽しい」――。西区会の神戸市立西体育館整備グループ(徳増芳男代表=生13期)のメンバーはのんびりと話してくれました。

よく晴れあがった5月27日朝、取材に伺いました。平成26年5月から毎月第4水曜日午前9時から11時(冬は10時～12時)まで、12、13人が参加、汗を流しています。メンバーは檜野台、竹の台、春日台、美賀多台の地元のほか、桜が丘、押部谷など遠方からも駆けつけています。

向井利隆館長は、小学校校長退職後、神出自然教育園の責任者となり、グループ〈わ〉の活動をよく知っていました。昨年春、赴任した折、この花壇を世話する人は館長1人だけで、とても世話しきれない。そこで〈わ〉本部を通して西区会に花壇の整備をお願い。西区会が幹部会や区会便りでメンバーを募り、十数人が手を挙げたといいます。館長は「体育館の稼働率は96%。市民のみなさまが汗を流した後、花壇の美しい花に足を止め、ほっと、安らいでいただけたらと願っています」と話していました。

この花壇は神戸市の市民花壇に指定されており、毎年15000円の助成金(最高)と年に3回、花の苗をいただけます。5月はマリーゴールド、8月はなでしこ、11月はパンジー。この日はマリーゴールド6箱240本を植え付けました。女性2人は花柄摘み。これが実

を結ぶと、花に栄養が回らなくなるといいます。1時間足らずで完了。生垣を短く切りそろえ、背が高い木に登り、枝も切り払いました。苗への水やりは体育館側がやります。

テーブルを囲んでティータイム。館長が冷たい飲み物を提供、メンバーが持ち寄ったお饅頭などが出ました。健康、食べ物のこと、人のうわさなど話の花が咲きます。

庭木用バリカン、熊手、ほうき、ジョウロ、バケツ、ホース、ネコ車など園芸用の道具は体育館が揃えています。メンバーは体を運ぶだけ。活動日が毎月第4水曜日と固定されているので、スケジュールの調整も楽になります。

山本孝治さん(福14)は「地元の体育館なので、世話のしがいがある。センスがなく女性陣に相談しながら花の配置などを考える」、木村敏夫さん(園12)も「気持ちよく働いている。体を存分に動かし、ボケ防止にもなる」と話してくれました。この日、メンバーになったばかりの樋口幸男さん(美工19)も「みなさんと、仲良く働きたい」と語っていました。

※西区会のほか、長田区会でも昨年10月から市立西市民病院の花壇の植栽管理を月に1回、実施しています。花の苗の植え付け、草引き、追肥などです。

(取材・写真 永野 知己)

わいわいストリート大盛況

子どもの日の5月5日、しあわせの村・芝生広場でわいわいストリート(〈わ〉と振興協会共催)が開催され、約2000人を超す家族連れで大賑わい。雲一つない晴天で、

気持ちの良い1日を過ごしました。

芝生広場にはむかしあそび研究会、木工クラブ、ケナ



フの会、うらしまたろうと〈わ〉本部からスタッフ計約150人が出動。竹馬、コマ回し、紙トンボ、はねかえる、ぶんぶんごま、けん玉、木工工作、ケナフ紙すき、バルーンアート、皿回し、輪投げ、妖怪ほいほいなどのブースがズラリとならびました。

木工クラブは汽車、自動車、カバ、トラ、のぼり人形作りを用意。車輪は難しいので、クラブ員が事前に作っておきました。板に形を描いておき、糸鋸でくり抜きます。部品をつなぎ合わせ、釘で止めれば出来上がり。親の方が夢中になるケースも。ケナフの会は押し花ハガキを作ります。金網を張った枠で紙の材料をすくいあげ、新聞紙で水分を取ります。その上に花びらをのせ、枠を外し、アイロンで乾かします。きれいに仕上がってにっこり。

4、5歳の女の子が竹馬に乗ります。最初は歯が立ちません。父親に支えてもらい、4、5歩を歩いてにっこり。大勢の子どもは皿回しに挑戦。何度もしくじって、うまく回るようになると得意顔でした。

事業担当者は「振興協会と初めての共催。〈わ〉が将来、すべての業務を担うことを視野に、広報のチラシを作成するなど苦労しました。この経験を今後に生かしたい」と話していました。

(取材・写真 広報 永野知己)

人形劇ほたる座にかわいい拍手

水の科学館 GWは〈わ〉で遊ぼう

「あゝおもろかった」――。幕が下りると、子どもたち30人が熱い拍手をおくる。5月4日、〈わ〉のボランティアグループ「人形劇ほたる座」=裏地彦允(食5)代表=の公演が水の科学館でありました。演目は日本民話を題材にした「おむすびころりん」。善良なおじいさんは、おむすびを巣穴に落としてネズミから宝物をもらい、欲張りなおじいさんはひど

い目にあうという筋。おむすびがコロコロころがると「あゝ」とため息。舞台と観客の心が通います。

メンバー7人は、黒い衣装に黒頭巾をかぶり、カセットテープに入れた台詞やナレーションをバックに人形を操ります。欲張りさんは、いかにもそれらしいご面相。終わる間際、テープの音が出なくなるというハプニング。近藤哲子さん(音15)が機転を利かせて台本を生声でカバーして事なきをえました。

この日の公演は朝10時10分から14時30分まで4回。公演を終えたメンバーは「年やな。立ったり、座ったりが辛い」とぼやきながらも、無事に終え、満



足そう。〈わ〉の水の科学館でのイベントは5月2日むかしあそび研究会、3日うらしまたろう、5日野草クラブ、6日kSCマジッククラブが協力しました。

(取材・写真 広報 永野知己)

ストレス吹き飛ばす森林浴ウォーク

春の森林浴ウォークは晴れ上がった6月1日に開催、26人が参加しました。北鈴蘭台駅に午前9時45分に集合し、森林植物園まで無料バスで移動。正門前から歩き始め、修法



が原、大龍寺、市章山、碓山を経て諏訪山公園、地下鉄県庁前駅まで(約10キロ)。緑たっぷりの森の空気を吸い、急な坂道を登り、下りし、日ごろのストレスは吹き飛びます。再度公園で昼食。市章山、碓山山頂からは青く輝く神戸

の海、高層ビルがめっきり増えた神戸の街を堪能、楽しい半日になりました。ある参加者は「万歩計で14000歩でちょうど、手ごろなコース。案内役の森の仲間さん、ありがとうございました」と話していました。(取材・永野知己 写真・四方久幸)

ボランティアの心

目に見える子どもの成長が励み

〈わ〉東灘区会から、発達障害の子どもが通う

「なかよし学級」の先生を支援するボランティアの依頼があり、出身校に恩返ししたいと引き受けました。毎週1日、登校から下校までと校外学習の支援です。4年半の間、延172日13人の子供たちに寄り添い、過ごしました。体験談をK君に絞ってまとめてみました。

初めて会ったのは、K君が2年生の時。教室では大声で騒ぐ、運動場では逃げ回る、物は壊すなど集団行動が出来ず、人とのコミュニケーションが出来ない状態。私は朝から下校までフォローに明け暮れていました。

なかよし学級では、あさわく会の朝礼があり、この機会にリーダーシップや音楽など集団行動の



躰けが行われており、子供たちが徐々に成長していく姿が見られました。学習支援や運動支援、交流学級での立会、校外学習での付添など遊びも含めてすべてが成長に向けての教育です。

K君6年生の時、修学旅行で奈良の若草山に登りました。卒業式では、順番に卒業証書を受け、長時間の歌の発表にも一人で対応でき、うんと成長した姿が見れ、うれしくて涙が出ました。

ボランティアで大切なのは、体力、優しい心、待つ姿勢です。やりがいは子供たちの成長が目に見えることでした。この度、体力の限界を感じ、終了としました。いいチャンスを与えていただき、有難う御座いました。仲間の皆さんもなかよし学級支援に、一度チャレンジされることを期待しています。

(堤 健・生9期 東灘区会)

活動レポート

北区会 老人福祉施設で整髪ボラ

北区会の有志ボランティアは、6月10日しあわせの村内の老人福祉施設「神港園」で、お年寄りの入浴後の整髪サービスを実施しました。同区ボランティアセンターから、平成15年に依頼を受け、グループを作り、活動を始めました。

毎週火曜日、入所者20人がお風呂からあがった後、ドライヤーで髪を乾かし、水分補給のため、お茶をサービス・食事介助も行っています。



同23年、水曜日も通所者20人へのサービスも始めました。現在、10人でローテーションを組み、活動していますが、欠員ができた時の員数合わせに苦労しています。

利用者さんから「ありがとう。さっぱりして気持ちが良い」と感謝された時には、心底うれしくなります。みなさまのご協力をいただき、今後も続けてまいります。ご協力いただける方はぜひ、下記にご連絡下さい。

(グループ代表 淡路忠義=福5 TEL078-592-8448)

須磨区会がお年寄りの 新緑散策に付添い

須磨区会では5月18日から22日まで、延べ15人のボランティアを動員、名谷すみれ苑デイサービス利用者を毎日10人づつ、新緑の舞子公園の散策にお連れしました。

5月18日、車いすの5人と一人でも歩ける5人が施設の



バスに乗り込みました。久しぶりの遠出とあって、「あれ、こんな建物ができてる」などと30分のバスツアーを楽しんでいました。ボランティアは、車いすを押したり、歩ける人には支えてあげながらゆるい坂道を登ります。あずまやで一服すると目の前には海が広がり、明石海峡大橋がのしかかってきました。このスポットで全員の記念撮影。昼食はレストランで、「ああ、おいしかった。満足、満足」。お年寄りの笑顔に、ボランティアもうれしくなりました。須磨区会はこの新緑散策と併せ、名谷すみれ苑で初詣で、お花見、紅葉狩りと、年4回の付添いボランティアを10年以上続けています。

(須磨区会 永野知己)

カレッジだより



新入生歓迎交流会

3学年合同の22期新入生歓迎交流会が5月18日～22日の間、生活環境、健康福祉、美術工芸・音楽文化、園芸・食文化、国際交流協力の順番にカレッジホール・学習室でそれぞれ実施されました。新入生からの質問、アトラクションや写真撮影などで会場は大いに盛り上がっていました。

ボランティア活動報告会

第20回ボランティア活動報告会が6月10日(水)ボラセン傘下の29グループが参加して開催されました。カレッジホールではグループ活動紹介とグループ〈わ〉の紹介がパワーポイントで行われました。続いてパフォーマンスによるグループ紹介が人形劇をトップに、混声合唱まで13グループが日頃の技を披露し、多くの拍手を受けていました。ふれあいホールでは作品展示と販売が行われと共にパネル展示(グループ〈わ〉)も行われました。和室ではKSC茶道部が、園芸室ではケナフの会による紙漉き体験教室が開かれました。

兵庫県警音楽隊がやってきた



交通安全並びに高齢者への振り込め詐欺防止キャンペーンとして、兵庫県警音楽隊のコンサートが、6月30日午後12時10分から約40分間、カレッジふれあいホールで開催されました。現役学生ら約300人が日本の叙情歌集「浜千鳥」「赤蜻蛉」など6曲と三木たかし作曲の演歌4曲などに聞き惚れました。北署の係官が昨年の振り込め詐欺の被害が日本全体で599億円と増加傾向にあることや、歌を交えて電話対応の留意点等の説明がありました。

地域交流会で〈わ〉の4人が講演

27年度の地域交流会が6月23日に北・兵庫区、24日に東灘・灘・中央・長田・西区、25日に須磨区・垂水区の日程で開催されました。



今回は、田阪学生支援リーダーから「地域交流グループの活動報告・分析」と題して、これまでの地域交流会各グループの活動報告・所属人数の推移・ボランティアセンター所属サークルの活動報告等、パワーポイントによる説明がありました。

次に、「私とボランティア活動」と題し、23日は佐伯義昭さん(国際8)が地域での学習支援活動体験談、24日は道井紅さん(健福17)が情報誌の取材活動がボランティア活動の出発点であった。その後手話ソングも披露されました。25日は山口昭則さん(生環18)より垂水地区でのボランティア活動体験が披露されました。

その後、「グループわの活動とは」と題して、グループわの小畑理事長から、地域活動がボランティア活動の出発点であり、シルバー世代の社会参加の必要性や、『出来る時に、出来る事を…』地域貢献が重要である…などの話がありました。午後には、地域交流グループ毎に分かれて、自己紹介やこれまでの活動実績の説明・今後の活動計画について活発な議論が行われました。



(写真・取材 広報 藤田 健一)

グループわ 7月～9月のイベント

開催日時・場所	テーマ・内容と協力グループ	連絡先
7月 25日 (土) 15時30分～18時30分 しあわせの村 芝生広場	しあわせの村まつり 協力:うらしまたろう、むかしあそび研究会 本部スタッフ	こうべ市民福祉 振興協会 078-743-8092
8月 1日(土)～8月 2日(日) 10時～12時・13時～15時 しあわせの村 野外活動センター	夏休み昆虫採集と標本作り教室 講師 宮崎敏哉先生、協力:里山和楽会	こうべ市民福祉 振興協会 078-743-8092
8月 4日(火)～16日(日) (上記期間の内 12日間) 10時～15時 水の科学博物館	(わ) で遊ぼう 協力:うらしまたろう、ケナフ、木工、花実の森 むかしあそび、和楽会、絵手紙、 ダンスの肥やし、マジック、銀雅	神戸市 水の科学博物館 078-351-4488
8月 9日(日) 10時～12時・13時～15時 しあわせの村 本館	夏休み工作塾 協力:ケナフ、むかしあそび、木工、里山和楽会 絵手紙、花実の森P J、里山グループ	こうべ市民福祉 振興協会 078-743-8092
親睦行事		グループ わ 078-743-8101
9月26日(土) 9時～	ローンボウルズ大会	しあわせの村 ローンボウルズ場
10月 3日(土) 9時～	ペタンク大会	しあわせの村 球技場
10月17日(土) 9時～	グラウンドゴルフ大会	しあわせの村 球技場

しあわせの村でカブトムシ観察会

親子カブトムシ観察会は4月25日、6月13日と7月4日にしあわせの村里山で開催された。グループ〈わ〉とこうべ市民福祉振興協会の共催。

3回とも参加してくれる小学生親子を募集し、自然体験学習の取り組みの一環で『カブトムシの棲み家づくりから幼虫・成虫観察まで』と題した。

14組30人を超える親子が参加してくれた。花実の森の生育場所からそっと掘り起こして観察。丸々と育った3齢幼虫に「わ～こんなに大きい！」と歓声しきり。ピン



自宅での観察用に持ち帰り

ポン玉を超えるくらいにまで育った幼虫に、はじめはおっかなびっくりだった女の子も、すぐに手のひらに乗せ「かわいい・・・」と肩をすぼめる。

観察後は、小枝のチップや枯葉を運び、自分たちの手で今年の産卵場所づくりのお手伝い到大張り切り。

2回目の6月13日では予定していたサナギの観察には少し早すぎたが、1回目に持ち帰った幼虫が自宅でサナギ観察ができ始めている模様。「しっかり観察日記に記録するんやで」と宿題付の観察会となった。

3回目の7月4日は、いよいよ成虫観察。ことしも成虫は7:3で雄が多かった。子どもたちは大きく育った姿に「すごーい」と感嘆。じっくり観察して、大切そうに家に持ち帰りました。

(花実の森整備プロジェクト・菅田忠志)

四方理事に写真展金賞

5月16、17日に開かれた神戸まつりのフォトコンテストで〈わ〉理事の四方久幸さん(国18)の作品が見事、金賞に選ばれました。タイトルは「出番はまだあ?」。子どもが退屈そうに出番を待っているシーンです。応募約700点中の1位。表彰式は7月27日。入選作品の展示会は7月27日から8月2日まで神戸市役所1号館2階市民ギャラリーで開催されます。四方さんは「外部コンテストの応募は初めて。しかも金賞とはびっくり。本当にうれしい」と話していました。

WAからのお知らせ



〈わ〉の会員総数1310人に

グループ〈わ〉の会員数は6月末現在、140人の新しい仲間を迎え、登録者は計1,310人になりました。新入会員は、昨年より少し減少し、コース別では、福祉40人、国際28人、生環22人、美工6人、音文22人、園芸5人、食文13人、一般4人です。会員総数は、高齢化などによる退会者が増え、40人ほど減少しました。卒業後の人生を爽やかにするために、〈わ〉の仲間に加わって活躍しませんかと、周囲の人を勧誘願います。年会費は1,500円です。入会手続きはカレッジ2F〈わ〉事務局(TEL743-8101)で、毎日受け付けています。

●交流フェア6 in K S C 「市民の手で広げよう再生可能エネルギーを」を7月16日に、兵庫県民会館9階「けんみんホール」で開催されます。カレッジ講師の和田武先生が基調講演。環境部会「創エネ神戸」がパネリスト。

●学習支援者の集い 学習支援委員会を7月24日(金)にカレッジ学習室で開催します。H27年度の学習支援の内容や体験報告など。

●環境未来館エコ講座

①花実の森プロジェクトでは「里山に棲むカブトムシ」について7月28日に講演します。

②たんすの肥やしが、「エコ+」企画展で「ステナアイデア!? 作品展」を10月8日～11月1日に開催します。

●ネパール大地震災害救援募金 〈わ〉はボランティアセンターと共に、被災者救援のため「ネパール大地震災害救援募金」を行っています。ご協力願います。募集期間は7月31日(金)までです。

●パソコンお好み塾 「年賀状を作ろう！」を10月7日、14日、21日、28日に、地域人材支援センター(旧二葉小学校)で開校します。

●〈わ〉のお盆休み 事務局は、カレッジの閉館日である8月13日(木)・14日(金)の2日間、お盆休みを取らせていただきます。

カレッジの閉館日は7月28, 29, 30日、8月7, 11, 13, 14, 20, 21, 24, 25, 26, 31日で、校内への立ち入りはできません。

●72号(10月号)の発行 2015年10月中旬です。

ボランティア 初心者マーク

つぶやき

カレッジへ入学。NPO法人グループ〈わ〉を覗いた。「ボランティア」の文字が見える。「ボランティアいつするの?」「今でしょ!」なんて言われ、「東北支援・子供達への支援・高齢者へのボランティア」。「ボランティアは難しい」と思っていたが、今日は西、明日は東、と活動を始め、いつの間にかはまり込んでいた。

入って驚いた。多くの人と出会い、多くの人と繋がり、様々な事が学べる。また、ボランティアを心待ちにしている沢山の人がいる。ボランティアは、災害地へ出かけるだけでなく「普通の生活にある」と思った。

ボランティアの求めに応じてコーディネートしてくれるのがグループ〈わ〉だった。ボランティアは難しいのではない。自分の意志さえあればできる。「ありのままがいい」のだ。また、もう一つ感じました。「ボランティア活動は、人生を豊かにしてくれる」。この充実感はなんなのか?

(片岡隆夫・前理事 国17)

編集後記



★初めて東北交流に参加しました。

5年間に6度もの派遣で、被災地のみなさんとしっかりとした絆が結ばれています。

第1次チームは、神戸を早朝に出発、北陸回りで夜、被災地に入ったとお聞きし、諸先輩のご苦労に頭が下がりました。(永野知己)

★広報を担当して1年が過ぎました。ぎゅらりーわとホームページによって、会員の皆様のご活躍を出来るだけ多く掲載して、会員相互の情報交換が盛んになることに、注力していきます。

ご活躍の様子が判る原稿、写真や情報のご提供をよろしく願います。(岡本紘一)

★〈わ〉の事務局勤務も早や4ヶ月が過ぎようとしています。グループへわが主催するイベントやボランティア活動の取材で写真を撮ったり、『編集長』という新たなソフトを使っただけの編集作業に頑張っています。今後も積極的にチャレンジしていきたいと思います。(藤田健一)

東北交流第6次隊を派遣



6, 7面に詳報 写真⑤はマジックに仰天 女川第四保育所で⑥は円盤ごまに笑顔 同第一保育所で



アジアの留学生に日本語教室

PHD協会は、有機農業等の技術の習得にインドネシア、ネパールなど、主に東南アジアの外国人研修生を招いています。研修生は1年間の留学生活をするのですが、4月から6月までの3ヶ月間はまずは日本語の勉強です。国際部会のPHD支援グループのメンバーが日本語学習の復習を行います。(写真⑥)

トピックス



6月28日(日)、須磨海岸クリーン作戦の出陣式に参加した神戸ぴかぴか隊



5月5日、しあわせの村で開かれたわいわいストリートでの血回し



代表 森下延市(福18期)

シルバーカレッジ関係者の皆さま ご利用をお待ちしています。
おご予約の際、お申し出下されば特別価格でご提供します。

お料理特別価格の一例

(税込・飲み放題込)

- すし会席 4,320円～
- 鱧鍋コース 5,400円～
- 海賊焼コース 5,400円～

●お昼の宴会 3000円から(要予約, 税別)
ご予算に応じます。



沖の磯

瀬戸内魚料理

☎321-7777

阪急・JR三宮駅から徒歩5分